

## 国際協力プログラム「WHO-NIPH生活習慣病対策ワークショップ」

WHO-NIPH「Regional Workshop on Strengthening Leadership and Advocacy for the Prevention and Control of Noncommunicable Diseases (LeAd-NCD) 2018」  
(2019年3月12日-15日)

### 1. 本研修の目的

WHO西太平洋地域事務局(WPRO)管内のアジア・大洋州地域の途上国では、生活習慣病の有病者の増加が大きな健康課題となっている。これらの国々にて生活習慣病対策を推進する保健省の担当者が一同に会し、その能力強化を図るためのワークショップを行うとともに、わが国での生活習慣病対策についての取組や知見を発信することにより、アジア・大洋州地域の生活習慣病対策の推進に資する人材育成を行うのが本ワークショップの目的である。

また、本年度は、過去5年間の本研修を振り返り、今後のWPRO管内の生活習慣病対策に資する研修のあり方を討議する政府高官会合も併催した。



【集合写真 本院：1階ロビー】

### 2. 開催概要

WPRO管内途上国の保健省の生活習慣病対策担当者の能力強化を目指す”Regional Workshop on Strengthening Leadership and Advocacy for the Prevention and Control of Noncommunicable Diseases (LeAd-NCD)”は、本年度で6回目の開催となる。本年度は「法制度に基づくNCD対策」を重点テーマとし、講義、グループワーク、わが国での事例として自治体の健康づくり条例に基づく対策の紹介等を行った。法体制に基づく生活習慣病対策に関するWHOの方針に関する説明とともに、参加者各国での対策状況について情報共有を図るとともに、生活習慣病対策となる基盤的な政策ならびに法規についての現状把握と具体的な改善策に関するグループ討論が活発に行われた。また、医療法規に関する世界的権威であるジョージタウン大学のProf. Gostinの講義も行われ、理論面からも多くの知見を共有した。

わが国の取り組み事例としては、和光市の協力を得て、健康づくり基本条例制定に至る経緯とその概要に関する行政担当者からの講義と、和光市ヘルスサポーターによる地域ボランティア活動についての視察を行った。ヘルスサポーターが実施しているラジオ体操教室とウォーキング教室に、本研修のメンバーが実際に体験参加することにより、地域での健康増進活動に関する学びにつなげることができた。終始、なごやかな雰囲気の中での視察となり、実り多いプログラムとなった。

後半の政府高官を対象としたハイレベル会合においては、これまでのLeAd-NCDワークショップの活動について振り返りを行うとともに、今後の生活習慣病対策に関連する人材育成研修のあり方について討議した。本院からは、これまでのフィールド視察についてのレビューを行い、日本での生活習慣病対策に関する好事例の発信につなげた。また、WPRO事務局がまとめた一連のワークショップ活動の動画については、近々You Tubeにアップロードされる予定である。最終日には、今後のWPRO管内の生活習慣病対策に寄与する人材育成研修について、Outcome Statementが提示され、各国への提言、WHOへの提言が確認された。

### 3. 対象国

本年度はカンボジア、フィジー、日本、ミクロネシア連邦、フィリピン、韓国、ソロモン諸島、トンガ、ベトナムの9か国からの参加であった。本年度のテーマを踏まえ、保健省のDirectorクラスと中堅クラスの行政官、ならびに議員もしくは議員政策秘書等が各国1〜3名ずつ参加し、合計の参加者数は21名となった。ひとつのテーマに向かって、異なる国々と部門の担当者がグループワークを行うことにより、生活習慣病対策の推進に必要な部局横断的アプローチを習得する研修内容となった。

#### 【研修の風景（講義、グループワーク）】



#### 【研修の風景（和光市視察）】



#### 【ハイレベル会合の風景】

